

○ ワークショップ「現代会計問題研究会」

開催責任者 経営学部 齋藤 孝一

2005年3月10日

南山大学名古屋キャンパス J棟 415教室

ワークショップは参加者16名、以下のプログラムで開催された

◇報告者および題目

- 1 赤壁弘康「ROE、EVAの有効性と限界」
- 2 亀井孝文「わが国公会計制度の生成と発展」
- 3 齋藤孝一「東海地区における意思決定とキャッシュ・フロー計算書の関係についてのアンケート調査」

◇ワークショップの討論内容

第1の報告は、これまで、理論的に利用価値の見出せなかったEVAが実務会で注目され、使用されている状況を、理論的にも妥当性があることを説明したものである。また、ROEとEVAは一般的には異なる経営指標と考えられているが、理論的には、同一の性質を持つものであることを証明したものである。これらの報告に対して、非上場会社に対する利用可能性、非上場企業における時価の測定方法等が議論された。

第2の報告は、わが国の公会計制度の構築、研究のためには、明治時代にわが国に諸外国から移入された経緯を正しく認識することからはじめなければならないという問題意識のもとに、明治時代初期から前期にかけてのわが国の公会計制度の基礎が形成された経緯についておこなわれた。ここでは、公会計と企業会計の違い、公会計の意義などが議論された。

第3の報告は、キャッシュ・フロー計算書の目的がどのように歴史的に形成されてきたかの検討と、キャッシュ・フロー経営とキャッシュ・フロー計算書のかかわりから導出した経営方針とキャッシュ・フロー計算書の関係についての仮説、ならびにそれを実証するためのアンケート調査の概要について行われた。ここでは、各種資金計算書の内容と、仮説の妥当性、アンケート調査の対象、内容について議論が行われた。

◇研究成果発表

それぞれ、2005年度の学会報告、論文執筆が予定されているが、詳細は未定。